

分野Ⅳ 都市基盤に関すること

1. 道路



- 地域の内外を結ぶ道路網の整備
- 町内道路維持補償
- 道路交通の安全確保
- 橋梁の予防保全型管理

こんな視点も

- ・通学路の安全確保
- ・交通事故の抑止

2. 上下水道



- 上水道管路施設の維持管理・改築更新
- 下水道管渠の維持管理

こんな視点も

- ・安全でおいしい水の確保と供給
- ・衛生的な環境づくり



3. 公共交通



- コミュニティバスの再編
- コミュニティバス等を利用することが困難な人への移動支援
- 公共交通に関する情報提供の充実

こんな視点も



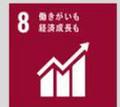
- ・高齢者等の生活利便性の向上
- ・マイカーから公共交通への転換

4. 駅周辺整備



- だれもが安全快適に駅へアクセスできる道路環境整備
- 交流・にぎわいが創出される施設整備

こんな視点も



- ・通勤利便性の向上
- ・安全な道路環境による交通事故抑止

11 住み続けられるまちづくりを



住み続けられるまちづくりを

16 平和と公正をすべての人に



ルールに則った、適切で公正な制度運営

パートナーシップの知見を活かした効果的な住民参画と官民連携

17 パートナーシップで目標を達成しよう



分野Ⅳ 都市基盤に関すること

1. 道路

生活道路及び歩行空間の整備と維持管理が適切に行われ、すべての利用者が安全・安心で快適に利用できる道路環境が整備されたまちを目指します。

【現状と課題】

- 京奈和自動車道（国道）や大和中央道（県道）など、地域の内外を結ぶ道路網の整備が計画されています。京奈和自動車道（国道）については一般部の早期開通を目指し、国へ要望（予算確保等）を行っているものの、開通時期の見通しが立っていません。大和中央道（県道）は、用地買収が進んでいますが、用地買収が難航している部分があります。
- 町道については維持補修を推進しています。交付金・起債対象事業として、平成27年度から令和3年度までに町道下永吐田線等の舗装打替（25,736㎡）、その他の町道維持補修として舗裝修繕（9,517㎡）を実施しました。一方で、社会資本整備交付金事業により執行予定の路線については、舗装工事に係る国費配分額が低く、事業執行が困難な状況にあります。
- 道路交通の安全確保については、道路パトロール及び通学路合同点検を実施し、通学路等の危険箇所の早期発見と対策を行っています（グリーンベルト設置：642m／横断指導線設置 転落防止柵設置 等）。引き続き、歩道と車道の分離ができない道路での歩行者の安全確保に努めていく必要があります。
- 橋梁については、予防保全型管理を推進しています。

【成果指標】

項目	目標値（R8）	参考値
町内道路全般に対する満足度 住民アンケート	35%	19.1%（R3）
交通安全対策に対する満足度 住民アンケート	20%	14.1%（R3）

重点プロジェクト
4つの柱

総合戦略：P96, P112



【取組方針】

1

地域の内外を結ぶ道路網の整備

- ・ 京奈和自動車道一般部の橋台橋脚工事が現在施行中です。引き続き早期開通に向けた工事の実施及び予算確保に努めてもらえるよう関係機関に要望します。また、大和中央道の用地買収が円滑に進むよう、地権者交渉に協力するなど、関係機関との連携を密にし早期開通を目指します。

2

町内道路維持補修の推進

- ・ 社会資本整備事業と公共施設等適正管理推進事業債を活用し事業の進捗を図ります。限られた予算の中、優先順位を見極め効率的な事業執行に努めます。
- ・ 道路パトロールや住民からの通報によって、道路損傷箇所の状況を把握し迅速な対応を図ります。

3

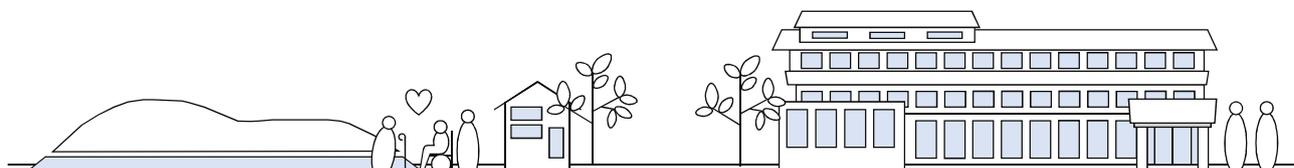
道路交通の安全確保

- ・ 交通量が多く、交通安全施設である路面標示が消えている区間を重点的に復旧していきます。
- ・ 通学路合同点検で危険箇所を早期発見し迅速な安全確保の対応に努めます。

4

橋梁の予防保全型管理の推進

- ・ 「橋梁長寿命化修繕計画」によって大規模橋梁（15m以上）については修繕対応済であることから、今後小規模橋梁（2m以上）の修繕工事を着手していきます。



分野Ⅳ 都市基盤に関すること

2. 上下水道

上水道では、安全でおいしい水を確保し、安定した供給体制を確立、維持していくことを目指します。下水道では、快適で衛生的な生活環境を維持していくことを目指します。

【現状と課題】

- 上水道事業では、上水道管の布設替工事を計画的に実施してきました。また、量水器交換作業についても計画どおり完了しています。令和4年4月からは磯城郡3町での経営統合により「磯城郡水道企業団」として業務が行っています。
- 下水道事業では、管渠清掃工事・人孔蓋改築工事・下水道施設点検業務を計画どおり実施してきました（令和3年度人孔蓋改築箇所数：500箇所）。町域の人孔蓋改築対象箇所数は2,200箇所あり、令和2年からの2箇年で550箇所の改築工事が完了し、進捗率は25.0%となっています。引き続き交付金を活用した改築工事を実施します。

CHECK

磯城郡水道企業団

令和4年4月から磯城郡3町（川西町、三宅町、田原本町）の水道事業経営を一体化した磯城郡水道企業団が水道事業を開始しました。

背景としては、人口減少等による水需要の減少や老朽化施設の更新・耐震化対応による投資費用の増大、熟練職員の退職による技術力の低下などが大きな課題として認識され、多くの自治体で水道事業における安定した経営基盤をどのように維持していくのか懸念されてきました。このような状況の中で、奈良県とともに磯城郡3町における水道事業広域化の検討が開始されました。

水道事業の広域化は、施設整備では県営水道への転換・直結配水による更新費用の抑制、管理体制では磯城郡3町の水道事業の経営統合による事業の効率化を行っています。

引き続き、安心・安全な水の安定供給のため、住民の皆さまに信頼される水道事業の運営に努めます。また今後、奈良県内市町村との更なる広域化についても検討を進めていく予定です。



重点プロジェクト
4つの柱

総合戦略：P112



【取組方針】

1

上水道管路施設の維持管理、改築更新

- 水道事業者が抱える課題を、単独で対応していくには限界があります。人口減少に伴う給水収益の先細りによって適切な更新事業費の確保が困難になることや、水道事業の維持に対して十分な技術力・人員の確保が困難になっていくことが明らかであるといえます。このことから、令和4年4月から磯城郡3町（川西町・三宅町・田原本町）の水道事業を経営統合し、「磯城郡水道事業企業団」で水道事業全般の業務を行うこととなりました。経営統合によって、上水道管路施設の維持管理、改築更新については企業団で取り組まれることになります。
- 今後も引き続き、水道の理想像である「持続」「強靱」「安全」の確保により、安全・安心な水道水を将来に渡って持続的に供給するため、上水道施設の適切な維持管理を行い快適な生活環境と水環境の保全を図ります。

2

下水道管渠の維持管理の推進

- マンホール蓋の耐用年数の経過や機能低下等によって修繕改築工事が必要となっています。修繕を早急に完了させるため、交付金活用や改築箇所数の整合性を見極めを行い事業を推進します。
- 管渠清掃及び下水道施設点検業務を計画的に実施します。

【成果指標】

項目	目標値 (R8)	参考値
公共下水道水洗化率 (水洗化人口/処理区域内人口) 担当課による集計	98%	97.3% (R3)
マンホール蓋改築工事進捗率 (町域マンホール箇所数/改築箇所数) 担当課による集計	100%	25.0% (R3)

分野Ⅳ 都市基盤に関すること

3. 公共交通

マイカーが利用しやすい環境と公共交通が機能的に整備された環境が共存することで、マイカーを使えなくなっても公共交通で移動ができるまちを目指します。

【現状と課題】

- ・ 町内の公共交通機関としては近鉄橿原線の結崎駅があります。駅から一定以上の距離がある地域（交通空白地）の住民の輸送を補完するため、コミュニティバスを運行しています。コミュニティバスの主な利用者である女性高齢者の運転免許保有率も上昇傾向にあり、利用者は減少傾向にあります。
- ・ コミュニティバスはおおむね町内を網羅するように運行していますが、利用区間・利用時間帯・利用者に大きな偏りがあり、事業採算性も非常に低い状況が続いています。一方で、利用者は限られていますが、その多くは運転免許を持たない高齢者であり、日常生活に必要な不可欠な存在になっているといえます。
- ・ 住民の外出時の交通手段の6割以上を「自動車」が占めており、自動車による移動が定着しています。

買い物・通院でよく行く目的地は町内が多く、次いで多い場所は買物では天理市・大和郡山市・田原本町、通院では天理市・田原本町となっています。今後、高齢者が免許返納後にも移動しやすい環境を整えていくことが必要といえます。



【成果指標】

項目	目標値 (R8)	参考値
町の公共交通施策の利用者数 (延べ) 担当課による集計	10,000人	7,621人 (R3)

重点プロジェクト
4つの柱

総合戦略：P96, P107



【取組方針】

1

コミュニティバスの再編

- ・ コミュニティバスを持続可能なサービスとして維持していくために、利用実態や移動ニーズを踏まえた、路線・ダイヤ・停留所に再編します。

2

コミュニティバス等を利用することが困難な人への移動支援

- ・ コミュニティバスを利用したくても利用することが困難な人が一定数存在しますが、コミュニティバスの充実には限界があります。コミュニティバス以外の手段で、こうした人々も移動しやすい環境を整えます。

3

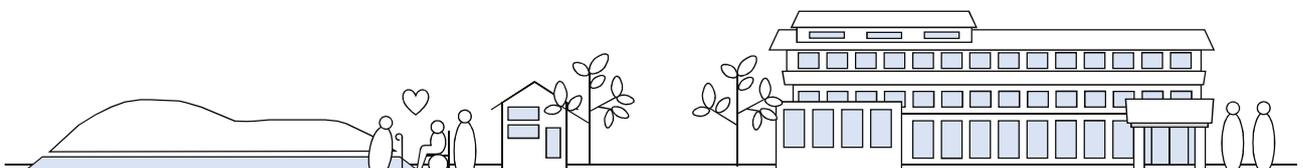
公共交通に関する情報提供の充実

- ・ 免許返納前にも、返納後の地域内の移動のイメージを持ってもらえるよう、広報紙やホームページ・SNSなどのウェブ媒体を活用して広報していくとともに、より使いやすくするための支援（乗換えアプリへの情報掲載）も行っていきます。

CHECK

コミュニティバス「川西こすもす号」

川西町では、平成24年度からコミュニティバスを試験運用し、翌25年度以降から本格運行を行っています。近鉄結崎駅と駅から遠い交通空白地とを結ぶために自家用有償運送（交通空白地有償運送）として実施しています。交通の空白地解消だけでなく、買い物や通院など住民の生活の足として活用されていますが、利用者が減少傾向にあります。



分野Ⅳ 都市基盤に関すること

4. 駅周辺整備

近鉄結崎駅を「まちの玄関口」として、だれもが安全快適にアクセスできる道路環境と交流・にぎわいが生まれる拠点施設の整備を進めていきます。

【現状と課題】

- これまで近鉄結崎駅周辺の安全円滑な交通環境の実現と、町の玄関口にふさわしい交流・にぎわい空間の創出を目的として駅周辺整備事業を実施してきました。令和4年度までに、駅利用者の安全な利用環境の整備として駅舎・駅前ロータリーが、交流賑わい空間として駅前広場が完成しました。
- 一方、駅へのアクセス道路において狭小な部分があり安全性が危惧されています。だれもが安全快適に駅へアクセスできる道路環境整備が求められています。
- また、2つの工業団地の最寄り駅である結崎駅は町外から多くの人を訪れる場所であるといえます。新たな付加価値の創出や町の魅力発信の場としての期待は大きく、交流・賑わいの取組が促進される施設整備が求められています。

【成果指標】

項目	目標値 (R8)	参考値
町道踏切の拡幅事業の進捗 (踏切部・前後道路部における整備延長) 担当課による進捗管理	52m ^{※1}	20m (R3) ^{※2}
併設施設の整備工事の進捗 担当課による進捗管理 (→下記【CHECK】欄)	供用開始 (R6末)	未実施

※1：踏切部12m + 前後道路20m × 2

※2：踏切西側

CHECK

併設施設の整備工事の進捗確認

R4 (1年目)：施設方針の決定

R6 (3年目)：建築工事の完了・供用開始

R5 (2年目)：設計業務の完了

重点プロジェクト
4つの柱

総合戦略：P96



【取組方針】

1 だれもが安全快適に駅へアクセスできる道路環境整備

- ・ 歩行者、自転車、自動車、バス等すべての交通が近鉄結崎駅に、安全・円滑にアクセスできるように周辺の道路環境整備に取り組みます。そのため、町道踏切の拡幅（前後道路を含む）に取り組みます。

2 交流・にぎわいが創出される施設の整備

- ・ 「まちの玄関口」としてふさわしい場として、交流・にぎわいが創出される施設整備をおこないます。そのため、併設施設の整備や遊具の設置に取り組みます。

CHECK

町の玄関口「近鉄結崎駅」

川西町唯一の鉄道駅として、「まちの玄関口」を担う近鉄結崎駅。交通アクセスの不便さや歩行者の安全確保などの課題を解決していくため、令和2年度から道路や広場、駅施設の整備工事に取り組んできました。令和4年2月には駅前広場が完成、同年6月には駅舎がリニューアルオープンしました。

町の玄関口として交流やにぎわいの場となるよう引き続き、周辺のアクセス環境や併設施設などの整備が予定されています。

